

がん5年生存率64%。早期なら92%

コロナウイルスの話題ばかりとなっていますが、2020年4月15日の読売新聞にこのような記事が記載されていました。国立がん研究センターは15日、2009～11年にがんと診断された患者の5年生存率が64.1%だったと発表した。(中略) 部位別で5年生存率が高い群(70%以上)は、男性が前立腺、皮膚、甲状腺、咽頭、膀胱など、女性は甲状腺、皮膚、乳房、咽頭、子宮体部などだった。一方、低い群(40%未満)には男女ともに、膵臓、胆のう、胆管、脳・中枢神経(脳腫瘍など)などが入った。

がん全体の5年生存率を進行度別にみると、がんが生じた部位にとどまっている早期は92.4%、周囲の臓器などに広がっている段階は58.1%、遠隔転移していると15.7%だった。

この記事を見る限り、がんの早期発見が進んだ事や、免疫療法などの新たな治療法の改善が生存率向上に貢献していると思われます。また、遠隔転移してからみつかったがんに比べて、早期に発見されるがんは生存率が高い事から、早期発見につながる定期健診をしっかりと受けることが必要と感じます。

男性		女性	
胃	67.5	房	92.3
前立腺	99.1	大腸	70.1
大腸	72.4	胃	64.6
肺	29.5	肺	46.8
肝臓	36.2	肝臓	35.1



がんの5年生存率(%)
* 患者数が多い順